

5月11日 1時から 於・多磨全生園福祉会館

---

講演 「ハンセン病文学」の意義と魅力（仮題）【加賀乙彦】

〔講師略歴〕

1929年、東京都三田生まれ。1953年東京大学医学部卒。1955年から東京拘置所医務部技官。1957年フランス留学。パリ大学サントランス病院、北仏サンヴナン病院に勤務し、1960年帰国。1960年医学博士。東京大学附属病院精神科助手、東京医科歯科大学助教授、1969年から上智大学教授。1979年から文筆に専念。1987年のクリスマス（58歳）にカトリックで受洗。

1986年から文芸家協会理事。1997年から日本ペンクラブ副会長、2003年から同理事。2000年から日本芸術協会員。日本近代文学館理事。

総会 活動報告と役員改選

問題提起 療養所の資料保存の現状（瀬戸内三園を中心に）【瓜谷修治】

資料目録、保存・管理の方向性－資料をどう考えるか

公文書館などの資料保存と公開の現状

開かれた資料館のシステムとは

－資料館は博物館か、文書館か、図書館か（その根拠法は？）

討 論 我々に何ができるか、何をしなければならないか

資料を活用した共同研究を立ち上げよう

※訂正とお詫び

「図書資料部会」の案内のうち、問題提起「公文書館などの資料保存と公開の現状」の「講師」に関して、準備の過程での不確定情報を掲載してしまい、その後も訂正を失念しました。二重の失態で、関係者の皆様に、大変ご迷惑をおかけしました。お詫びして訂正いたします。

幹事 藤巻修一